2016年7月18日
原水禁　非核・平和行進（岡山）

報告　のざき

被ばく71周年を迎える7月18日、梅雨明けの暑い日差しの下、原水禁岡山市民会議が中心に非核・平和行進を行い50名が参加した。出発集会で市民会議代表の大石和昭弁護士は、「30年前の当時は8・6広島に向けて臨時列車がでたが、いま受け継がれてきていることに誇りを持てる。いまも福島では多くの人が被ばくしている。将来に大きな禍根を残す核に反対をしよう」と訴え、岡山市被ばく者会・平末豊会長も「オバマの広島訪問を評価する動きもあるが遅すぎた。国を守るために核を持つことは、世界を危うくし、間違いだ」と核政策を批判した。退女教の内田順子さんは、自民党のホームページに学校の実態調査報告を求め、政治的中立性に逸脱している例として「子どもたちを再び戦場に送るな」など、教育現場で管理が強まっている。モノが言えなくなる、自粛する空気が怖い」と報告。行進は、途中2か所で休憩をとりながら約3時間半、シュプレヒコールで市民に訴えながら12kmを元気に歩きとおし、中には高校生の参加もあった。途中では、わざわざ家から出てきて「（戦争に自衛隊派遣は）私も反対だからね」と声をかけてくれたり、離れた家の窓から手を振っての激励もあったり、例年の行進に見られなかった光景であった。